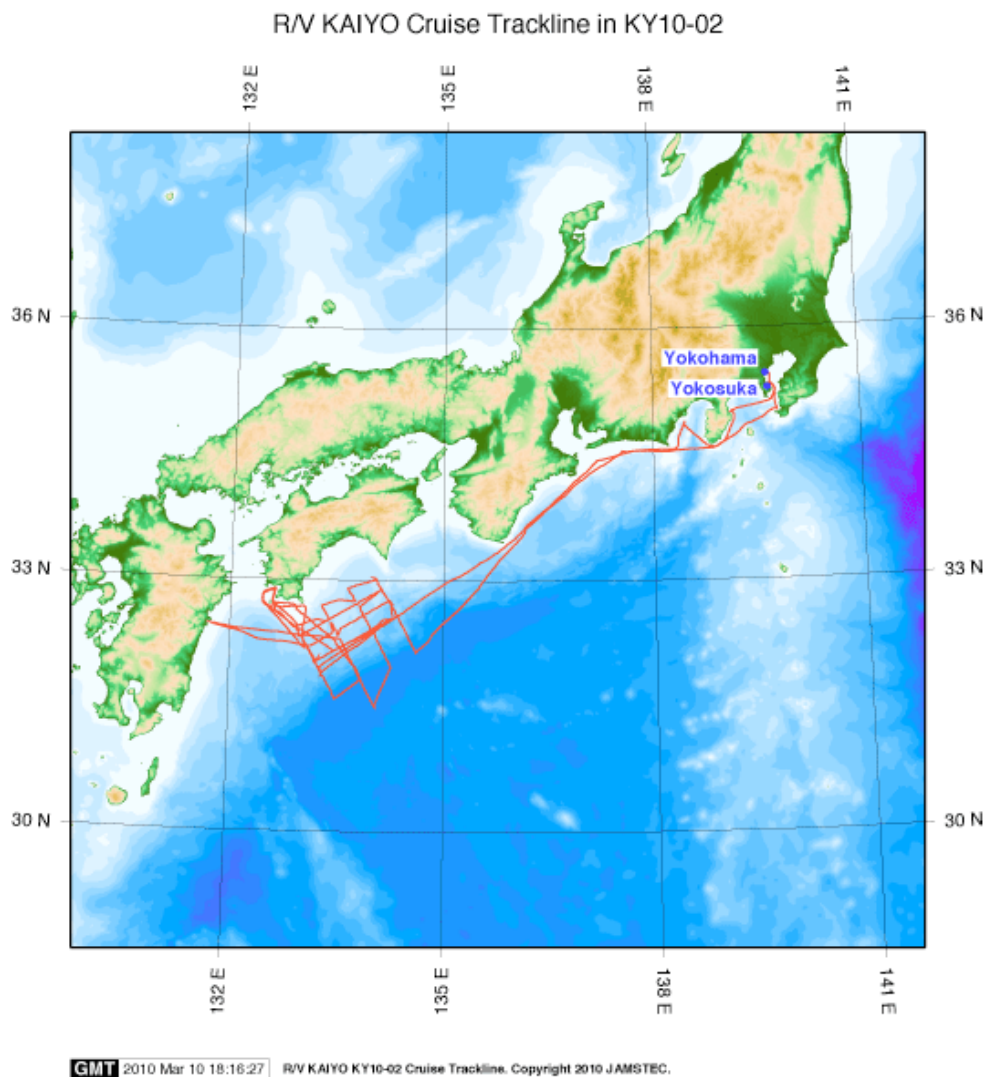


クルーズサマリー

1. 航海関連欄内容：

- (1) 航海番号・使用船舶：KY10-02・「かいよう」
- (2) 航海名称（実施要領書名）：平成 21 年度受託研究「四国沖および紀伊半島沖における地震探査および自然地震観測調査研究」
- (3) 首席研究者・所属機関：藤森英俊・海洋研究開発機構
- (4) 課題代表研究者・所属機関：
金田義行・海洋研究開発機構
- (5) 課題受付番号・研究課題名：
「受託研究 東海・東南海・南海地震の連動性評価のための調査観測・研究」
- (6) 航海期間・出港地～寄港地～帰港地：
平成 22 年 1 月 28 日～2 月 16 日・横浜新港～海洋研究開発機構岸壁
- (7) 調査海域：四国沖
- (8) 船舶の航跡図：



2. 本文：

(1) 目的：

本航海は、文部科学省からの受託研究「東海・東南海・南海地震の連動性評価のための 調査観測・研究」の個別研究テーマ「南海トラフ域海域地震探査・地震観測」（平成 20 年度から受託）の一環として実施する。

南海トラフで繰り返し発生する巨大地震の中には、東海・東南海・南海地震が連動して発生する超巨大地震のケースがあることが指摘されている。このような超巨大地震について、どのような場合に連動あるいは非連動性の巨大地震となるのかを明らかにすることが必要である。さらに超巨大地震の中には、日向灘まで破壊域に含まれる可能性も示唆されており、南海トラフ巨大地震の連動性評価を考える上で、日向灘の地殻構造や地震活動も重要な情報となる。日向灘の地殻構造と地震活動を把握する目的での調査は昨年度に実施した。本研究の目的は、日向灘から四国沖の破壊セグメント境界から四国・室戸沖までの南海地震破壊域における沈み込みに関する詳細な構造のイメージングおよび地震のアスペリティに関する構造を明らかにするためのデータの取得、西南日本の付加体先端部付近で発生している低周波地震や微動を含む地震活動を把握し、沈み込み帯の地殻構造、巨大地震の発生、地震活動の相互関係の解明に資することである。そのために海洋調査船「かいわれい」 KR09-14 航海によって短周期地震計(OBS)を四国沖に設置し、屈折法・反射法地震探査および自然地震観測を実施している。本調査ではKR09-14 航海によって設置され、屈折法・反射法地震探査データ取得終了後の 180 台の OBS を回収する。長期地震観測データを取得中の OBS21 台は引き続き設置のまま、来年度の「かいわれい」の航海で回収予定である。

航海中は、地震探査調査と併せて、海底地形観測や重力・地磁気調査を並行して実施する。

(2) 実施項目：

1) 海底地震計 (OBS) の回収

四国沖にて海底地震計 176 台を回収した。

2) 海底地形

測線上にて海底地形データをマルチビーム測深器を用いてそれぞれ取得した。

3) 音速補正のための水温・塩分濃度観測

海底地形調査の音速補正用に expendable-Bathy Thermograph (XBT) を実施した。